

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100648		
法人名	有限会社 さとほろ		
事業所名	グループホーム さとほろ 3階		
所在地	札幌市中央区宮の森1条6丁目1番16号301		
自己評価作成日	平成29年10月31日	評価結果市町村受理日	平成29年12月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0170100648-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○家庭的な雰囲気大切にしながら、関わりを重視し和やかで安心できる環境作りに努めています。
 ○入居者さんとスタッフの距離が近く、毎日ゆったりとした時間を共有出来ています。
 ○一人ひとりの持てる力を見出し、今出来ることの維持継続に努めています。
 ○ヒヤリハットの活用で、沢山の小さな気づきから事故の回避につながるよう努め、合わせてケアの質の向上にもつながるよう努力しています。
 ○個々に合った外出支援で、社会とのつながりを絶やさずに、四季を感じ気分転換出来るよう努めています。
 ○ご家族の面会、協力が多く、スタッフとの連携もとれ信頼関係が出来ています。
 ○毎日の作業やレク活動の提供と、毎月の行事で楽しくメリハリのある時間の共有に努めています。
 ○慢性的なスタッフ不足の中、重度の方が多いですが、スタッフ皆頑張っています。
 ○医療連携体制を整え、安心して暮らせるよう努めています。
 ○ご家族の希望に添い、安心・安全・安楽を基本に看取りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は札幌市中央区の住宅街に位置している。近隣には地下鉄、スーパー、神宮の森などがあり、利便性の良い恵まれた環境にある。建物は6階建てのマンションで、3～4階を2ユニットとしている。代表者、管理者、職員は一体となって利用者の健康で楽しく、安心できる生活を支援している。食事では食材を吟味し献立を工夫するなど特に配慮している。季節ごとに多彩な外出行事を企画し、郊外へのドライブ旅行を行い生活の活性化に努めている。家族とは「家族会」を年6回、運営推進会議後に開催し、参加者も多く事業所と家族は信頼関係で結ばれている。医療については、医師の定期的な往診があり協力病院と連携している。家族の希望に沿い、医療連携のもと、医師、看護師、職員、家族が方針を共有して看取りを実施している。地域に溶け込み、地域の中学校や保育所との交流をもち、福祉関係実習生を受け入れるなど、事業所のもてる力を社会にも還元している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを意識し、スタッフ全員で意見を出し合い作成した。『地域に根差し、知恵と工夫と創造力を持ち、ゆったりとした毎日を過ごせるよう、ひとりひとりの楽しみと健康と安全を考慮しながら、家族の協力を得つつ学び支えます』という理念がある。玄関、台所、スタッフルーム等に理念を掲示、毎朝の引継ぎ時に理念を唱和し、理念を共有、実践出来るよう努めているが、十分とは言えない。	理念は地域密着型サービスの意義を踏まえ職員全員で作成している。玄関、スタッフルームなど室内の目につく場所に掲示し、毎朝の引き継ぎには唱和している。職員は名刺裏に理念を印刷している。新人研修や、内部研修時には理念について話し合い職員全員の共有をはかり、日々実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	挨拶等は積極的に行い事業所の存在を知ってもらえるよう努めている。人員に余裕がなく町内会活動には十分に参加出来ていないが、夏祭り、保育園の運動会、お餅つき等の行事には声を掛けて頂き、入居者の皆さんと必ず参加し交流に努めている。	町内会に加入し行事に参加している。近隣の保育園行事に招待を受け運動会の玉入れ競技に参加するなど交流を深めている。専門学校実習生や隣接中学校生徒の職場体験学習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護タクシー事業にて、地域貢献に努めてはいるが、まだまだ十分とは言えない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第二水曜日に運営推進会議、家族会を開催し、報告、情報交換、意見交換、質問の場として定着している。報告書を生全家族へ、スタッフへも内容を周知し、サービス向上につなげられるよう努めている。	会議は包括支援センター、民生委員、代表、職員、家族が参加し、定例に開催している。行事、事故報告、職員異動など運営状況を報告し、意見交換を行い、サービス向上に努めている。議事録は家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者会議に出席、事故報告、他不明な点や疑問点等についても報告、相談をしながら、適正なサービスの提供、ケアの質の向上につなげられるよう努めている。7/3に実地指導を受け、指摘を受けた点は速やかに改善に努めた。	行政担当課職員とは常に連絡、報告、相談などで連携をとっている。市主催の会議、研修会に出席し、行政の意向を把握し協力関係を築いている。市の実施指導を受ける機会があり協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加、内部研修でも繰り返し学ぶ機会を設け、禁止の対象となる具体的な行為を意識し、日々のケアや関わりを振り返り、スタッフ一人ひとりが自覚と責任を持ち互いに注意喚起しながら発生の防止に努めている。マンションの玄関はオートロックであるが、各フロアは状況に合わせ(夜間・離所の危険回避等)施錠をすることもあるが、基本施錠をせずに自由に行き来出来るようにしている。	マニュアルを整備している。外部研修に参加し、内部研修を行い職員全員が身体拘束について具体的に周知するよう努めており、身体拘束はしていない。1人ひとりを見守り安全に配慮しながら自由な雰囲気の中で暮らせるように努めている。マンション玄関はオートロックであるが、フロアは夜間など安全確保の為施錠することもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修にて学ぶ機会を設けている。入居者の身体の様子は都度確認し、申し送りでも確認している。日々のケアや関わりを振り返り、スタッフ同士注意喚起し防止に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、内部研修にて学ぶ機会を設けているが、十分とは言えない。更に制度の理解を深められるよう学び、必要時には活用出来るようにしたい。現在、成年後見人制度(後見人)を利用している方が二名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には契約書や重要事項等で説明し、利用者やご家族の不安や疑問点を聞き、十分な話し合いを心掛けている。また、契約後も連絡相談をしながら、理解納得の上サービスを利用して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に意見や要望をくみ取れるよう意識し取り組み、ご家族には話しやすい環境作りと都度尋ねることに努め、家族会での意見交換やアンケート調査を実施している。要望があった時には話し合い、記録に残し速やかな改善に努めている。また、言いにくい時には外部機関があることも知らせている。	家族会が運営推進会議終了後引き続き開催されている。長年行われており盛況である。毎月「便り」を送付し家族に利用者の生活状況を報告している。日頃から家族の訪問は多く、運営推進会議や家族会では家族が自由に意見を表す機会がある。アンケート調査を実施するなど、家族の意見を尊重し運営に反映させている。公的な苦情受付機関を案内している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、フロア会議、自己評価、個別面談、日々の勤務に於いて、スタッフの意見や提案、思いを聞き取るように努めてはいるが、それらを十分に反映することはできていないと思う。	代表者や管理者は会議や個別面談で職員の意見を聞く機会を設けている。代表者は職員と共に利用者のケアにあたり、職員の思いを把握しており、可能な限り意見を反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、スタッフ個々の努力や実績、勤務状況の把握に努めていると思うが、現場との温度差があり十分とは言えないと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合わせた採用時研修、毎月の内部研修、現場に於いての実技指導、外部研修義務参加(一人年二回以上参加)、希望による外部研修参加、資格取得を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区のグループホーム管理者連絡会やスタッフ勉強会、外部研修に参加し交流の機会、ネットワーク作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの相談、意向が中心となってしまうことが多いが、話せる方は本人に尋ね、話せない方はご家族に尋ね、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いをよく聴き、その思いを受け止め、安心して頂けるよう、こまめな報告、連絡、相談にて信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を希望されて来られる方がほとんどだが、相談時には本人、家族の思いを聴き、必要時には他のサービスの説明もしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの尊厳を大切にし、相手の立場になり考え、共に暮らす者としての関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に支えていきたいことを伝え、本人と家族の関係を大切にしながら、日々の報告連絡相談をこまめに取りながら、共に本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎日ご家族の面会があり、親戚の方や知人の面会もある。ご家族との外出や外食も楽しんでいる。	家族や友人の面会は頻繁にあり、事業所内で共にゆっくり寛げるように配慮している。手紙のやり取りや電話かけの仲介をし、馴染みの関係が続くように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの認知度や性格、それぞれの関係等に配慮、仲介しながら、入居者同士が作業やレク活動等を通じて関わり、支え合える関係づくりの支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族の訪問、差し入れを頂く等、つながりを大切にしながら関係継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、よく話をすることを心掛け、希望や意向の把握に努め、希望がある時はその都度対応できるよう努めている。困難な場合は、フロア会議で検討するようにしている。	日々の会話や動作から本人の意向の把握に努めている。家族からも情報を得、記録に残し職員間で情報共有している。本人の希望に沿えるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の協力を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメントに努め、把握出来るようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人(可能な方)、ご家族の意向を確認し、毎月、必要時にはモニタリングの場を設け、意見交換をしながら介護計画を作成している。	介護計画は本人、家族の意向を聞き、担当者、介護支援専門員が中心となり、職員全員で検討している。3カ月～6カ月毎にモニタリングを行い、状況変化時には随時見直し、現状に即して作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランをもとに個別記録をし、情報交換、共有、反映に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な範囲で対応していけるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われているイベント等に参加し、ボランティアの受け入れ、職場実習&職場体験の受け入れ、民生委員・消防の方には避難訓練にて協力を得ている。また、ご家族との外出や外食等、社会とのつながりを大切にしていけるよう支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院(受診)医療連携ホームDr(往診)を基本に、受診時のご家族の同行、往診時の同席、その他都度の報告連絡相談にて必要な医療を安心して受けられるよう支援している。	利用者希望のかかりつけ医には家族と共に通院、連絡するなど支援している。提携クリニック医師の往診が月2回あり、必要時には協力医療機関と連絡がとれる体制にある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎火曜日の午後、訪問看護師による日常的な健康管理、様々な症状についての報告相談にて処置や指導を受け情報の共有が図られている。急な体調不良時にも速やかに対応できる体制を整え支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書を提出し、可能な範囲で面会に行き、安心して治療を受けられるよう支援している。退院の時期に関しては、担当医・本人・ご家族の話し合いにて対応している。また、主治医がホームDrの方も、必要時には入院が出来るよう協力病院と提携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	毎年10月～11月頃とケアプラン見直し時、または状態の変化に伴い、現状と今後考えられる状況、ホームで出来ることについてご家族に説明し意向を確認、書面にて同意を得ている。また、状態に合わせご家族と医師、看護師と話し合いの場を持ち方針を確認、全スタッフがそれを共有し取り組んでいる。	入居時に看取りに対しての本人・家族の概ねの意向を聴いている。状況が変化した時は「重度化対応・看取りに関する指針」を文書で示し家族の同意を書面で得たうえで、医師、看護師、職員、家族と方針を共有し看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡体制を整えている。内部研修、外部研修にて学ぶ機会と訓練を受けているが、更に実践力を身につけられるよう学びの場を設けていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や町内会の方、ご家族の協力を得て、年2回夜間・日中の出火を想定した避難訓練・救助方法の実践を入居者と(可能な方)と一緒にを行い、その反省を共有している。地震・水害時の対応・避難方法についても確認し合っている。また、マンション内での水消火器使用の実践や外部研修にも参加し実践訓練を行っている。	消防署指導のもと、年2回昼夜を想定して避難訓練を実施している。家族、町内会の方の協力を得ている。毎日防災点検表により電気器具などチェックし、防火、防災に努めている。地震、水害、停電時の対応についても職員全員で検討し、緊急連絡網を整備し、避難経路の確認、食料備蓄など行っている。	防災については日頃より実施している。居住環境がマンション3～4階であること、利用者が高齢であることから、有事の避難には人手がかかることが推測される。消防署と連携を密にとり、継続して非常口など避難経路の安全確認をすることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者であることを忘れずに、その中にも親しみを込めた言葉使いを心掛けているが、配慮に欠けてしまうこともある。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、接遇に配慮している。個人情報記載書類の取り扱いには注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望をくみ取り、それを表出出来るよう雰囲気作りや個々に応じた話し掛けの工夫で働きかけている。自己表現が難しい方に対しては思いをくみ取れるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度化に伴いスタッフ側のペースにならざるをえない場面もあるが、一人ひとりの体調や気分には配慮しながら、楽しみややりがいにつながる関わりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	偶数月に訪問美容を利用している。自己決定の出来る方には尋ねることに努めている。ホーム内外、寒暖やTPOに合わせた身だしなみに気を配っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	二十四節気や毎月の行事、日々の希望を献立に反映させ、個々の力量に合わせての下ごしらえ、味見、下膳、食器拭き、テーブル拭き等と一緒にやっている。雰囲気や会話も大切にしながら、楽しい食事の時間の共有を心掛けている。	利用者の好みをメニューに取り入れ、食材や味付けに配慮している。利用者は力量に応じて手伝い、職員と共に同じテーブルに着き、和やかに会話するなど食事は楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病、年齢、性別、活動量、体重の増減に配慮し、一日30品目摂取を目標に支援し毎日の飲食料を記録している。また、個々の状態に合わせた食事形態や食器類の工夫、目でも楽しめる内容を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の方と夕食後のみの方がいるが、食後には十分な水分摂取の支援に努めている。個々に必要な口腔グッズを活用しケアを実施、適時義歯洗浄も行っている。また、希望者には毎火曜日に訪問歯科衛生士にて口腔チェック、口腔清掃、嚥下体操等を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度化に伴い、時間ごとの手助けが主になってはいるが、個々の排泄パターンを把握し、出来るだけ失敗につながらない支援に努めている。	排泄記録や表情から排泄パターンを把握し、トイレに誘導している。パットなどの使用もあるが、できるだけトイレでの自立排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握しながら、十分な水分摂取と便通を良くする食材、食品の工夫や腹部マッサージ等で便秘予防に努めている。高齢や重度化に伴い自然排便の難しい方には、医師の指導のもと服薬や座薬の調整でコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	高齢と重度の方が多く、入浴は午前中に体調や気分に合わせて、皆が平均的に入浴出来るようにしている。汚染時等も臨機応変に対応出来るよう支援している。不調等で入浴が困難な時は、清拭や足浴、手浴、ドライシャンプー等で清潔を保てるよう支援している。また、楽しい入浴が出来るよう会話や香りにも配慮している。	入浴は週2回以上の実施を基本としているが、体調や希望、タイミングなどにより臨機応変に行っている。清拭や足浴、シャワー浴なども行い、清潔を保持し、一人ひとりが入浴が楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、年齢、生活リズムを考慮しながら、温湿度や寝具、衣類、周囲の音や臭い等にも気を配りながら、安心して休息、眠れるよう支援している。また、夜間眠れない時には飲み物の工夫や会話等で安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの説明、処方箋、申し送り等にて目的、用法、副作用等の理解に努め、薬が変わった時には特に注意を払い、必要時には医師、看護師に報告、相談し適切な処方への支援に努めている。また、服薬確認は複数のスタッフで行い、服薬介助時には目と耳と声で再確認し事故のないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る力を発揮出来るよう、作業、レク活動、会話、趣味や特技を生かせる時間と場の提供に努めている。また、個の楽しみ、集団での楽しみを工夫しながら、役割や楽しみごとが、自信や励み、喜びにつながることを願い支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって、また個々の体調や体力に応じて、可能な限り散歩や買い物、ドライブ等で外気に触れ季節を感じ、気分転換が出来るよう支援しているが、スタッフ不足により出来ないこともある。毎月の外出行事、さとほろ三大大行事(新年会・お花見・敬老会)では、ホテルや回転寿司でご家族と共に会食を楽しんでいる。また、ご家族と買い物、外食等の外出も行われている。	利用者の希望や体調に配慮して季節ごとに多様な外出行事を企画している。花見、動物園見学、大型店買い物、外食、会食、水族館見学、イルミネーション、雪まつり見物などがあり、利用者の楽しみとなっており、生活の活性化に繋がっている。家族の同行や支援もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、ホーム立て替え後日請求にて対応している。私物の買い物支援では一回千円以内の買い物を自分で考え商品を選ばれている。また、お金を所持していなければ不安な方には、ご家族と相談のもと、千円を財布に入れ所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により支援している。また、ご家族からスタッフへ電話があった時に、可能な方にはご家族へ仲介している。毎正月個々の写真入り年賀状を作成し、ご家族や知人へ送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が狭く、車椅子使用の方がほとんどで限りはあるが、家庭的な雰囲気大切にしながら、清潔を心掛け入居者と一緒に制作した物や、季節ごと行事ごとの装飾の工夫と、生花等で四季を感じ居心地の良い空間となるよう心掛けている。また、その時々に合わせてCDやラジオ等で音楽を流し、都度の換気や消臭剤の使用で室温、湿度、臭いにも気を付けている。	リビングは広く使用できるように南側にサンルームを増築している。ソファを設置したテレビ鑑賞室もあり、利用者が暮らしやすいように工夫している。生花や季節の飾り物、利用者の作品を展示し、家庭的な温かい雰囲気である。掃除が行き届き、清潔で明るく、温度、湿度は適切に管理し騒音や臭気もない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が絶対的に狭く、車椅子を使用している方が多いため制限を大きく受けているが、可能な範囲で工夫に努め、食卓での席もその時々状況に応じて交換する等で対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心して過ごせるよう、今まで使用していた家具や装飾品、家族の写真等、ご家族の方にコーディネートしていただく等で居心地よく過ごせるよう工夫している。入居年数の経過に伴い物品が増え、収納にも限りがあり手狭になることもある。身体状況の悪化に伴い、模様替えをすることもある。	馴染みの家具を持ち込み、家族の写真や仏壇を飾り、安心して過ごせるように配慮している。ポータブルトイレを居室で利用することもあるが、換気を行い、臭気や衛生面に注意しており、清潔である。家族の意向も取り入れ、居心地よく暮らせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	賃貸マンションで、改築型のホームのため段差もあり限りはあるが、手摺の設置、踏台、滑り止め、ポップで場所を知らせる、家具の配置や高さ等の調節で安全な環境作りに努めているが、重度化に伴い十分とは言えない。		